

# **Annual Report 2021**

年次報告書2021

# **Contents**

#### 会長挨拶

- 3 時代と共に変わるもの、変わらないもの -2021年を振り返る
- 4 Vision 活動概要
  - 国立ハンセン病資料館
- 6 2021年度 厚生労働省受託事業 「国立ハンセン病資料館等の運営と啓発広報一式」活動報告
- 7 社会を変える100名の看護職リーダーを育成 海外留学制度「Sasakawa看護フェロー」
- 8 ハンセン病問題のない世界の実現 ~コロナ禍でもハンセン病問題を置き去りにしない~
- 10 「看護師が社会を変える」 〜拡大する看護の役割とその可能性を追求〜
- 12 Pick up our activities in 2021
- 14 会計報告/財団概要

# 時代と共に変わるもの、変わらないもの -2021年を振り返る



公益財団法人笹川保健財団 会長

喜多悦子

西暦2021年は、明治でいえば154年、大正110年、昭和96年、平成33年・・・そして令和3年です。明治は44年、大正は14年、昭和は63年、平成は30年でした。元号〈げんごう〉は日本特有のものではなく、古来、中国や韓国、またベトナムでも用いられてきましたが、現在も使っているのは日本だけだそうです。ただし、王家のある国では君主の系列に従って、〇〇王朝とか、〇〇朝とよばれることは普通にあります。現在、世界最高齢の君主として本年即位70周年を祝われた英国エリザベス女王は、ウィンザー朝第4代、イギリス6人目の女王です。

私ども公益財団法人笹川保健財団の生みの親 笹川良一翁は1899年/明治32年、石館守三博士は1901年/明治34年のお生まれです。共に明治後期が幼少・学童期、大正から昭和初頭が青年期でした。翁や博士のお考えの根幹には、明治・大正時代には生きていた、あえて申せば古来の日本固有の哲理と共に、大正デモクラシーともよばれ、当時は民本主義と訳されていた民主主義デモクラシーという、新しい思想の影響もあったことでしょう。

人々の生き方、考え方は時代と共に変わりますが、その中で先人が打ち立て、時代の波にも耐えた理念は、現世に生きる私たちがまもり、さらに後世に伝えねばなりません。現在、財団のビジョン「すべての人々により良き健康と尊厳を」は翁と博士の時代のお考えを、近代的になぞったものです。

世界には、さまざまな病苦、社会苦、不公正、不平等があります。

2019年末、中国に端を発した新型コロナ (COVID-19) パンデミック (世界的流行) は、2021年も燃え続けました。ウイルスという超微細な病原体は、洋の東西を問わず、老若男女を問わず襲い掛かります。しかし、情報、予防措置、検査そして治療のあり方はさまざまな格差によって影響を受けています。格差・・・偏見、差別はパンデミックが生じたから起こるものではなく、長い年月を経て、人々の心の中に巣くっています。

笹川保健財団は、1974年の創立以来、創立者の理念を求めてまいりました。2021年も、国際活動としては、偏見差別の直接的対象となってきたハンセン病者への対策を中心に、果敢な啓発活動を行ってまいりました。国内にあっては、助けを必要とする病者・障害者そして高齢者を支援できる看護師の活動強化を継続しています。

財団は一丸となって、引き続き努力いたしますが、いっそうのご支援をお願いいたします。

## 会長ブログ ネコの目

医師ならではの視点から論説、エッセイ、活動の様子・ 紹介を随時更新しています。



https://www.shf.or.jp/blog\_chair

# Vision

# Better Health & Dignity for All

すべての人々に、より良き健康と尊厳を

私たちは、すべての人々が、いつでも、どこでも、どんな状況下にあっても、 身体的にも、精神的にも、社会的にも、さらにスピリチュアルにも より良い状態と、人としての尊厳を維持できるよう、最大限の努力を続けます。

ハンセン病問題のない世界、ハンセン病を経験したことで 苦しむ人々がいなくなる世界の実現

# 病気による負荷をなくす

WHOハンセン病制圧大使との連携を通じた効果的な アドボカシー活動を展開する

重点国ごとにプライオリティを明確にし、 WHOらとの連携を通じて各国のハンセン病対策活動 を支援する



患者早期発見のための学校でのハンセン病検診(キリバス)

歴史を保存する

ネットワーク化に取り組む

各地の歴史保存のモデルとなる

# 偏見・差別をなくす

当事者団体を強化し、関連する政策策定や プログラムの実施過程への参加を促進する

当事者が直面する差別の実態を明らかにし、 その撤廃に向けて持続的に取り組む仕組みを構築する

ハンセン病問題への関心や理解を高めるため、 効果的な広報・情報発信・啓発を行う





# すべての人々が地域社会において、 健康で質の高い生活を送るための看護の強化

# 地域における『看護』強化

在宅/訪問看護および地域保健の 推進に寄与する人材を育成する

地域包括ケアシステムの中核となる在宅/ 訪問看護の拠点を作る

在宅/訪問看護の担い手から成るネットワーク を構築、維持する



若さとICTを活かした訪問看護を実践(神奈川)



6件目の看多機(看護小規模多機能型居宅介護)が

# 『看護』の有効活用と見える化

政策提言に向けた看護実践による調査研究を推進する

日本の看護師の役割や可能性を国内外に発信する



# 住民の健康意識改革

地域密着型の啓発活動を支援する

保健医療や健康についての理解を深めるための講座、 多職種連携強化やネットワーク作りの勉強会を開催する





ロビスコ・パイス療養所におけるハンセン病の 歴史ミュージアム (ポルトガル)

Annual Report 2021

### 国立ハンセン病資料館

# 2021年度 厚生労働省受託事業 「国立ハンセン病資料館等の運営と啓発広報一式」活動報告

当財団は、日本のハンセン病問題での事実と正しい知識を伝えるため、国立ハンセン病資料館の運営を担っています。2020年来の新型コロナパンデミックは世界の博物館・美術館施設に大打撃を与えましたが、当館スタッフ一同にとっても資料館運営は厳しいものでした。しかし完全閉鎖の日々を含め、悪戦苦闘しながらの工夫、インターネットを利用した新機軸には手ごたえもありました。

2021年度は人数・時間制限のある限定開館で幕を開け、 臨時休館、限定開館を経て、11月半ばにようやく一部制限付きでほぼ通常開館にこぎつけたものの、僅か2ヵ月で、またしても限定開館となりました。1年の大半が制限付きという事態から、2021年度1日当たり平均来館者数は、過去最高であった2019年度の約1/8にとどまりました。しかしながら、制限の有無にかかわらず、ハンセン病問題に対する正しい知識の普及啓発は必至です。来館できない方々にもご利用いただけるオンラインプログラムの充実にも力を入れました。

館内常設展示に加え、「『青い芽』の版画展-多磨全生園の中学生が彫った「日常」の風景」、「私たちの上に、今日、青空が広がった「らい予防法」違憲国家賠償請求訴訟判決20周年展」、「帆船「豊丸」展」、「生活のデザイン ハンセン病療養所における自助具、義肢、補装具とその使い手たち」の4つの企画展・特別展・ギャラリー展では、子ども、国賠訴訟、家族、障害という視点でのハンセン病問題を取り上げました。

オンラインでは、ハンセン病問題をさまざまな切り口から

語るミュージアムトークや、「ハンセン病と人権」セミナーや講演会、小学生向けの多磨全生園とハンセン病問題の歴史を伝える展示解説に加え、団体向け展示解説や出張講座などプログラムも多数用意しました。オンライン化により、遠方、介護・育児などの理由から資料館に出向けなかった方々も資料館プログラムにご参加いただけるようになったと、ご好評をいただいています。

2021年度には、展示や講演など表に見える事業と共に、それらを支える収蔵資料の整理や収蔵環境の向上にも、よりいつそう積極的に取り組みました。

ハンセン病問題に対する正しい知識の普及啓発による偏見・差別の解消と、患者・元患者とその家族の名誉回復を図るよう、今後もいっそうの努力を尽くしてまいります。引き続きのご支援をお願いいたします。

**所 在 地** 東京都東村山市青葉町4-1-13

午前9時30分~午後4時30分

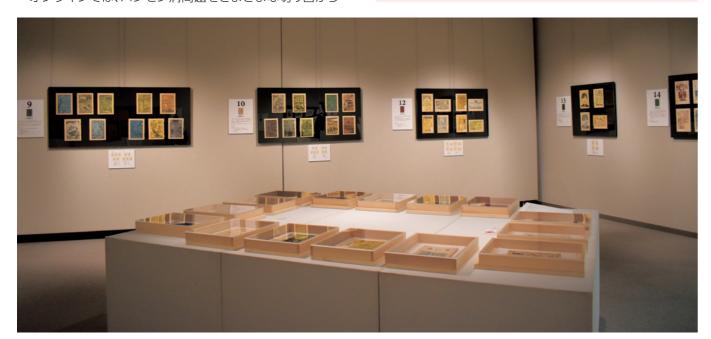
(入館は午後4時まで)

入館料 無料

木 館 日 月曜日および祝日の翌日。ただし、月曜日が祝日の 場合は開館。年末年始。館内整理日。

国立ハンセン病資料館 公式YouTubeチャンネル

https://www.youtube.com/c/hansenmuseum



1953年に多磨全生園内に開校された東村山中学校分教室の卒業文集『青い芽』に収録された子どもたちによる版画107点が展示された

### 社会を変える100名の看護職リーダーを育成

# 海外留学制度「Sasakawa看護フェロー」

2021年度新たに開始した「Sasakawa看護フェロー」は、 グローバルな視点とリーダーシップを持ち、これからの保健 分野を支える看護職を育成する留学奨学金制度です。

アメリカ・カナダの公衆衛生学、疫学、保健政策、人口動態、 生命科学・医療、看護学などの分野において、修士・博士課程 へ進学する看護職を対象に、年間最大1,320万円の奨学金を 給付します。

本事業の目的は、科学的に思考し、社会を導く看護職リーダーを育成することです。留学支援によって、世界規模のダイナミズムを体感し、多様なバックグラウンドを持つ仲間と切磋琢磨する機会を提供します。10年間で100名の看護職リーダーを育成する計画です。

本制度のユニークな点は、ただ奨学金を提供することに留まらない、フェローのネットワークを構築するべく設計されていることです。選考を経て認定されたSasakawa看護フェローは、月に1回程度、さまざまな分野の講義を受講し、論文を読んでレポートを提出するといったフェロー活動への参加が義務付けられています。留学前から参加するこの活動を通じ、フェローたちは、同じ目標を持ち、研鑽し合う仲間としての関係性を深めていきます。また、留学後もフェロー同士、さらに財団との連携を保ちながら、それぞれが学んだ専攻領域の知識を集結させ、社会問題の解決に貢献していくことが期待されています。

初年度となる2021年度は、14名のSasakawa看護フェローを第1期生として認定しました。それぞれが活動を通じ、視野を広げながら夢に向かって準備していますが、うち2名がすでに2022年度よりアメリカの大学院で学ぶことが決まっています。

医療従事者でありながら、ケアのプロフェッショナルである 看護職は本来、診療の補助に留まってよい人材ではありません。医療従事者の過半数を占める彼ら、彼女らが、より広い視 野を持って地域の身体的・社会的健康を看ることができれば、 現代社会の歪みを正すことに大きく寄与することができるで しょう。本事業は、この認識に基づき、今日ますます高まる看 護職への期待に十分応え得る看護職リーダーを育成することを目指しています。



2022年から留学が決まっている Sasakawa看護フェローの武内さん



Sasakawa看護フェロー創設に関する記者発表には、日本看護協会の福井会長にもおいでいただいた

Annual Report 2021

# ハンセン病問題のない世界の実現~コロナ禍でもハンセン病問題を置き去りにしない~

ハンセン病はらい菌による慢性の感染症です。かつて不治の病と呼ばれていましたが、現在は多剤併用療法(MDT)という治療法が確立しているため、早期発見・早期治療を行えば治癒する病になりました。しかし、世界では毎年約20万人の患者が新たに診断され、その人数は過去10年以上大きく減少していません。さらに当事者やその家族は社会からのいわれのない偏見や差別に苦しんでいます。当財団は、ハンセン病問題のない世界、すなわちハンセン病を経験したことで苦しむ人々がいなくなる世界の実現を目指し、①病気に

# 2021 Highlight

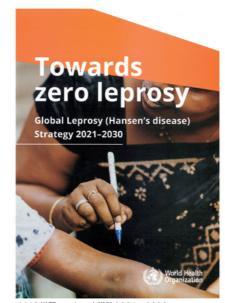
## 世界16ヵ国のハンセン病対策を支援

WHO世界ハンセン病プログラム(Global Leprosy Programme /GLP)は、2021年4月に世界ハンセン病戦略(2021-2030)「ハンセン病ゼロに向けて」を発表したほか、各国のハンセン病に関するデータ収集・分析、新型コロナウイルスの流行によるハンセン病対策活動への影響調査、コロナ禍での早期発見診断活動やコミュニティ啓発活動などの実施手法に関するガイドラインの周知などを行いました。当財団は、GLPによるこれらの活動を支援すると共に、6つの地域事務所(アフリカ、東地中海、南東アジア、西太平洋、米州、ヨーロッパ)による技術支援および16ヵ国の保健省によるハンセン病対策活動を支援しました。

また、2021年は第44回WHO総会(1991年)で「ハンセン病制圧宣言」が採択されてから30周年となる節目の年でした。当財団は5月のWHO総会開催に合わせ、「各国は引き続きハンセン病対策に重点的に取り組むべき」というWHOハンセン病制圧大使のメッセージを発信し、世界27ヵ国45紙のメディアに掲載されました。

## ハンセン病コミュニティへの緊急コロナ支援

新型コロナウイルスの流行によって、世界中で感染者・死者数が爆発的に増え、人々の生活は混乱を極めました。特に貧困層が多いハンセン病コミュニティが受けた被害は甚大で、迅速な支援が求められました。そこで、当財団は2020年度に引き続き、直接的ニーズへの対応、行政へのアドボカシー、積極的な情報発信を柱とする「COVID-19緊急支援事業」を10ヵ国、13の当事者団体を対象に実施しました。本事業において当事者は単なる支援の受け手としてではなく、問題解決に取り組む主体的なアクターとして携わりました。



WHO世界ハンセン病戦略2021~2030



「型コロナウイルスの啓発活動、同時に孤立した人々のカウンセリングも行う



障害予防のためのセルフケア推進 (IDEA Niger ニジェール)

よる負荷をなくす、②偏見・差別をなくす、③歴史を保存するの3つの柱の下で、活動を実施しています。 新型コロナパンデミックが始まって2年目となった2021年度は、上記3つの分野での活動を継続しつつ、コロナ禍で緊急支援を必要とするハンセン病コミュニティに対する支援や、ハンセン病問題が置き去りにされないためにもオンラインによる啓発活動(ウェビナーやイベントの開催など)を中心とした "Don't forget leprosy" 「ハンセン病を忘れないで」 キャンペーンを新たに実施しました。

### 当事者への差別に関する実態調査

当財団は、長期化するコロナ禍により、当事者の置かれている厳しい現状が各国から報告されたことを受け、①新型コロナウイルスの蔓延がハンセン病当事者に及ぼした影響、②差別の実態、③社会経済状況の3つの調査を主とする事業への支援を10ヵ国14団体に行いました。調査結果は2022年秋頃にとりまとめる予定です。

## ユースフォーラム地域会議

ハンセン病問題を解決するためには若い世代の参加が欠かせません。そこで次世代を担う若者の発掘とネットワーク形成を目的として、2021年12月から翌年1月にかけて、「ハンセン病問題を解決するために若者が果たすべき役割」というテーマで、南米、アジア、アフリカの3地域において、オンラインによるユースフォーラム地域会議を開催しました。全地域合わせて15ヵ国、174名が参加し、当事者コミュニティに所属する若者が抱える課題や彼らの活躍を促す方法などについて、活発な議論が交わされました。

## ナイジェリアにおける音楽遺産の保存支援

イコリ・ハーコート・ホワイト氏は、化学療法が開発される前にハンセン病を患い、ウズアコリ療養所で暮らしながら、音楽創作活動に従事し、その生涯で200曲以上の讃美歌を作詞作曲しました。その美しい調べはナイジェリアのみならず、近年は海外の音楽家の間でも注目されています。彼の弟子であるアチーニフ氏は、これらを歌い継ぐためにハーコート・ホワイト合唱連盟を結成すると共に、現地語(イボ語)で書かれた詩の英訳、文字記譜法で記されたメロディーの五線譜への書き換えなどを行うことで、世界中の人に彼の音楽の素晴らしさを伝える取り組みを開始しました。当財団は、この音楽遺産の継承・保存活動を支援しています。



当事者団体の活動を支える若手メンバー(HANDA 中国)



最も適切な英語表現を考えるための複数人による詩の翻訳活動 (A-HWCA ナイジェリア)

# 「看護師が社会を変える」〜拡大する 看護の役割とその可能性を追求〜

2014~2020年度実施の「日本財団在宅看護センター」 起業家育成事業の研修修了者108名中97名が 全国27都道府県で116ヵ所の事業所を運営しています(2022年3月末)。2021年度は、コロナ嵐の吹きすさ ぶ中、これら起業看護師たちは、緊急新型コロナウイルス対策、各地域の社会問題への取り組み、成果や問 題を学会発表するなど、さらに活躍の場を広げました。また、在宅/訪問看護を身近に感じ、地域・在宅で

# 2021 Highlight

# 新型コロナウイルス自宅療養者対応簡易マニュアル作成と関係介護事業所への配布 …看護師による社会貢献①



10



日本財団「新型コロナウイルス研 究支援募金 | およびボートレーサー からのご支援をいただき、新型コロ ナウイルス対策の簡易マニュアルを 作成、全国の在宅/訪問看護事業所 約13,000ヵ所と、日本財団在宅看護

ネットワークの40事業所が関連する介護事業所約320ヵ所に配布しました。介護事業所への配布は、 ネットワークの仲間がマニュアルと共に感染防具セットサンプルも持参し、実践指導も行いました。 受け取られた介護事業所からは、「看護師に医療的な相談ができてよかった」 などの謝意をいただき、 看護師の地域相談役機能を深めました。



#### 日本財団在宅看護ネットワーク 短皂但 一社)医療看護110番 (一社)ちゅらまーる (同) エリスリナ (一計)養生 (一社) 陽だまり (有)高蔵住宅 一社)在宅看護センター関西 青森県 (一社)ともに 群馬県 (一社)緑の杜 (株)Care Creat (一社)安寿 (一社)はたのおと (一社)よすが 茨城県 ■ 支所 ー社)ハーモニーナ*ー*ス 石川県 (同)Esterカンパニ-(一計)ソーシャルエザインリガレッセ★◆ (株)悠·YOU・ゆう サテライト (特非) おゆうげん (一社)CARE (一社)レイール◆ (株)izanami ★ 看多機 (一社)ミモザ 埼玉県 ホームホスピス (一社)在宅看護センター北九州 (同)岡山在宅看護センター晴 一計)7トかり (株)こひなた (株)結びの糸 (株)ココリタ 広島県 (株)モンステラ (株)Co-Co Joinir (一社)ライフナビゲー にじのはな(株) 一社)ホットス **千葉県** (株)よもぎ (一社)居笑★ 山口県 (株)T-フォース 長崎県 (株)在宅看護センター横浜■■ (一社)コモド 熊本県 (株)Grace (一社)テラ 二重但 (一計)宝命◆◆★ (件) 在空看灌わいター城市 (株)たのも (一社)ヒタムキ (一社)街のイスキア 一社)つかさ■ ー社)コ・クリエーション (株)すえひろ (株)悠·YOU・ゆう -社)Life & Com (株)Spinne (同)WOTS (株)WiLvy -社)愛楽園 ····(一社)すこやか◀ (同)あまね -社)グロース唯 (株)ハートワーカー (株)Life & eat 高知県 K&Y(株) (一社)カインドネス (株)ライフコンタク 一社) 黒衣<mark>★</mark> (株)ONE (株)Smilage (一社)カインドネス (株)エンジョイライフケア 一計)在字看護センター永愛の息 (株)みかん (株)ことぶき (一社)ユニバーサルケア◆ (一社)在宅看護センター四国 (一社)ハートオブナーシング

の看護力をいっそう理解いただくための啓発活動、地域保健力向上に資する研究実施など、日本財団在宅 看護ネットワークのみならず、近隣の同業者他の実践家や研究者とも協働し、「看護師が社会を変える」活 動を広く推進しました。

## 地域にとけこむ活動…看護師による社会貢献②

社会的孤立は、喫煙、高血圧、肥満よりも健康寿命に影響すると指摘されています。近 年、薬の代わりに社会的な「つながり」を「処方」 することで生き甲斐や社会参加の機会 などを提供し、生活の場における健康改善を図る「社会的処方」に注目が集まっています。 日本財団在宅看護ネットワークの仲間たちも、それに類する活動に取り組んでいます。

福岡県田川市で活動している「むゆうげん」は、社会的孤立は女性より男性に多いこ とを受け、65歳以上の男性を対象に、フランス・ニース在住のシェフ松嶋啓介氏のネッ ト指導の下、「男の料理教室」を開催しました。また、訪問看護の傍ら、貧困家庭の 子どもたちの自立を促す子ども食堂を運営している沖縄県南城市の「ケアサイクルの 駅訪問看護レインボー」は、その仲間の子どもたちと「栄養のある食事を作ってみんな で食べる炊き出し大会」を開催、子どもたちが作ったお弁当を孤立高齢者や食に困っ ている家族、安否確認を要する世帯などに配布しました。



### 子どもたちによる炊き出し

## 地域密着型の啓発活動支援と実践的な研究活動支援

日本の実働看護師約150万人のうち、在宅/訪問看護に従事する人は、僅か5%以下で す。当財団では、地域の人々に訪問看護を理解し活用いただくための地域密着型啓発 活動を支援しています。「まちの保健室」的啓発活動では、地域住民に対する相談だけ でなく、健康意識の向上や在宅/訪問看護を理解いただくための集まりなどを開催し 身体的健康だけでなくメンタルまたは社会的にも、生活を看護ることができる看護師 の役割を啓発しています。

研究助成では、地方の独居高齢者の食生活支援システム構築を目指す研究や、高齢者 の医療・ケア方針表明への関連要因の研究など、高齢化が進む日本が抱える問題を捉え、 かつ実践に役立つ看護師による研究が増えました。さらに、本助成事業による研究論文が、 Neuro-Oncology Practice、Journal of Hospice and Palliative Nursingなど国 際的な専門誌にも掲載されました。



地域の高齢者対象のお灸数室

研究助成事業の論文掲載誌

## 第3回日本在宅医療連合学会大会での発表

当財団と日本財団在宅看護ネットワークは、日本在宅医療連合学会大会で毎年、スポン サードシンポジウムを開催しています。コロナ禍により2021年度はオンライン開催でしたが、 [在宅/訪問看護の質を保証する事業運営を問う]をテーマに、指定研究担当者である佐 野けさ美先生が「運営の質・サービスの質評価票」を用いた事業所の評価分析結果を発 表、続いて本ネットワークから4名の仲間が事例報告を行いました。その後、共同座長の平 原優美氏の司会により、訪問看護ステーションの運営について活発な議論が行われました。



27都道府県に116ヵ所の事業所が全国ネットワークを構築(2022年3月現在)

# Pick up our activities in 2021

# 「ハンセン病を忘れないで ~Don't forget leprosy」 キャンペーン

長引くコロナ禍により、普段から脆弱な環境に置かれているハンセン病当事者の状況はさらに厳しいものとなりました。また、多くの国でハンセン病対策活動の優先順位が下がり、患者の積極的な発見活動が滞りました。世界保健機関(WHO)によると、2020年の新規患者数は前年に比べて37%減少しました。

このような状況の中、笹川ハンセン病イニシアチブ(※)はWHOハンセン病制圧大使の就任20周年という機会を活かし、『ハンセン病を忘れないで~Don't forget leprosy~』キャンペーンを2021年8月に立ち上げ、コロナ禍にあってもハンセン病問題を置き去りにすべきでないというメッセージを世界に向けて発信しました。
※当財団、日本財団、WHOハンセン病制圧大使の戦略的アライアンス

具体的には、ウェビナーシリーズの開催、啓発動画の制作・配信、テレビ・ラジオ・SNSなどを通じた啓発メッセージの発信、ハンセン病の差別撤廃を訴える「グローバル・アピール」開催などの活動を実施しました。

### (ウェビナー)

人権、医療、啓発など複数のテーマで全6回開催し、当事者、政府、 国際機関、NGO、研究者らとコロナ禍におけるハンセン病対策の重 要性について討議しました。また、WHOハンセン病制圧大使が毎回 出演し、ハンセン病の制圧や当事者に対する差別撤廃について視聴 者と直接対話を行いました。

### (啓発)

世界ハンセン病の日(1月末)に合わせて、13ヵ国において、32のNGO、当事者団体、研究機関、政府機関などと連携し、共同プレスリリースの配信、メディア活動(新聞、テレビ、ラジオ、SNSが対象)、行政への働きかけ、学校・医療機関でのイベント開催など、さまざまな形で啓発活動を実施しました。

### (グローバル・アピール2022)

世界で活動する37のフィランソロピー財団から賛同を得て、ハンセン病の患者・回復者とその家族に対する差別を撤廃するためのメッセージを発信しました。特設ウェブサイトでは、過去16回(2006年~2021年)のグローバル・アピールの概要を参照することができます。

☞特設ウェブサイト(https://gasasakawa.org/)



新型コロナウイルスを学ぶ オンライン公開講座



2021年度 第1回公開講座チラシ

忽那賢志先生(大阪大学医学部感染制御学講座教授)を講師に招き、『看護師が理解しておくべき新型コロナウイルスのあれこれ』と題し、オンラインセミナーを開催しました。

日々、変異している新型コロナウイルスについて、感染症の経過や治療、ワクチン接種や副反応、後遺症や治療薬、今後の展望などの正しい知識を、穏やかな口調で非常に判りやすく解説いただきました。さらに、「日本財団在宅看護センター」起業家育成事業の修了者 入澤亜希氏(在宅看護センター葵の空 代表理事/東京都豊島区)より、同事業所で複数のスタッフが陽性となった事例について共有されました。

参加者からは「今後利用者さんに正しい情報を伝える事ができ、 正しい感染対策を行える」、「ずっと悩んでいた指導の仕方にアドバイスをいただき感謝」、「患者さんなどに感染対策の必要性を説明する 時の自信に繋がった」など、多くの感想が寄せられました。

当日は看護師を中心に、医師や介護職の方々など、日本全国47都 道府県と海外からはイギリス・ラオス・ザンビアなど、1,800名の参加 がありました。

# WHO笹川健康賞 〜動画配信による授与式

1985年来継続してきたWHO笹川健康賞は、世界の人々の健康 増進のためのプログラムやプライマリ・ヘルスケアにおいて顕著な 貢献のあった個人、または非政府団体などを対象として顕彰するも ので、今後の活動の発展を奨励することを目的とし、例年、世界保健 総会(於:スイス・ジュネーブ)期中に贈呈しています。

第37回目となる2021年の授与式は、新型コロナパンデミックのため動画配信での開催となりました。

受賞者はオマーン国内の抗微生物薬耐性システムを構築し、新たな感染症に対する疫学調査の促進に貢献したアマル・サハル・アルマーニ博士と、中国の家庭医育成および連携体制の整備によって、遠隔地に住む人々の健康状態改善に寄与したウー・ハオ博士の2名。

日本財団 笹川陽平会長から贈られたビデオメッセージでは、受 賞者がプライマリ・ヘルスケアの理念を体現した活動を通じ、感染症 への対策を講じてきたことへの謝意と祝意が述べられました。





受賞者のアルマーニ博士

WHO公式ツイッターによる受賞者の発表(ハオ博士)



受賞者へビデオメッセージを贈る日本財団 笹川陽平会長 (日本財団YouTubeより提供)

## 故 紀伊國献三最高顧問 追悼集·写真集刊行

当財団創設時より中心メンバーとして財団を支え続け、2020年5月15日に逝去した紀伊國献三最高顧問を偲び、追悼集および写真集を2022年3月に刊行しました。コロナ禍の影響で、対面での偲ぶ会などは未だ開催の目途は立っていませんが、追悼集には紀伊國最高顧問と関わりのあった多くの方から追悼文を寄せていただきました。

日本財団 笹川陽平会長には、巻頭のロングインタビューのなかで、笹川記念保健協力財団(当時)創設以前から、財団創設時、エイズ啓発キャンペーンの際にエリザベス・テイラーを迎えた時やチェルノブイリ笹川医療協力プロジェクトなど、さまざまなエピソードを振り返っていただきました。笹川会長は、「紀伊國先生は学問的業績というよりも、学問の世界、あるいは医学会の、人と人とをつないで化学反応を起こすといった非常にユニークな仕事をやられてきた方」と振り返り、わが国の国際保健の道筋をつくるためのコーディネートに尽くされた紀伊國最高顧問を偲ばれました。

追悼集では、当財団関係者以外の方からも追悼文を寄せていただきました。その中でも特に、紀伊國最高顧問が筑波大学での教授時代に、教え子として関わってこられた先生方からは、その後の人生に少なからず影響を与えた紀伊國最高顧問の教えを追悼文に記していただき、卒業後も折に触れて気にかけていたエピソードからは、気配りの人であった紀伊國最高顧問の姿が浮かび上がります。

写真集では、財団創設時の記念式典の写真や、かつて笹川良一会長(当時)、笹川陽平会長と共にマザーテレサにお会いした時の写真、日野原名誉会長(当時)を囲んでの忘年会の写真など、財団の歴史とはまた違った視点で紀伊國最高顧問を振り返りました。

追悼文を寄せていただいた方をはじめ、これまで紀伊國最高顧問を通じて当財団に関わってくださった皆さまに、この場を借りて御礼申し上げます。追悼集データをご希望の方は、当財団総務部にお問い合わせください。



紀伊國献三最高顧問追悼集·写真集

### ハンセン病当事者団体 ATMA Swabhimanによる学校での啓発活動(インド)

E味財産増減計算書	内訳表			2021年4月1日から20	)22年3月31日まで
I 一般正味財産増減の部	B				(単位:円)
	科目		公益目的事業会計	法人会計	合 計
1. 経常増減の部	(1)経常収益	基本財産運用益	0	13,242,311	13,242,311
		特定資産運用益	38,807,013	26,223,801	65,030,814
		事業収益	515,442,385	0	515,442,385
		受取助成金	647,665,916	77,700,000	725,365,916
		受取支援金	3,496,215	0	3,496,215
		受取寄附金	8,118,898	300,000	8,418,898
		雑収益	550,739	2,459,703	3,010,442
		有価証券評価益	4,199	663	4,862
		経常収益計	1,214,085,365	119,926,478	1,334,011,843
	(2)経常費用	助成金事業費	647,665,916	0	647,665,916
		自主事業費	52,368,315	0	52,368,315
		受託事業費	502,491,872	0	502,491,872
		事業費計	1,202,526,103	0	1,202,526,103
		助成金管理費	0	42,179,268	42,179,268
		自主管理費	0	26,293,255	26,293,255
		管理費計	0	68,472,523	68,472,523
		経常費用計	1,202,526,103	68,472,523	1,270,998,626
	評価損益等調整	整前当期経常増減額	11,559,262	51,453,955	63,013,217
	特定資産評価推	員益等	△213,750	△27,331,377	△27,545,127
	評価損益等計		△213,750	△27,331,377	△27,545,127
	当期計上増減額	Ą	11,345,512	24,122,578	35,468,090
2. 経常外増減の部	(1)経常外収益	経常外収益計	0	0	0
	(2)経常外費用	経常外費用計	0	0	0
		当期経常外増減額	0	0	0
		当期一般正味財産増減額	11,345,512	24,122,578	35,468,090
		一般正味財産期首残高	795,093,266	3,036,430,307	3,831,523,573
		一般正味財産期末残高	806,438,778	3,060,552,885	3,866,991,663

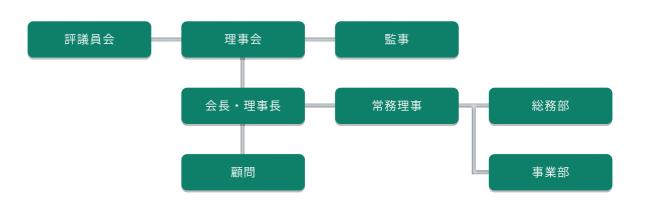
### Ⅱ 指定正味財産増減の部

	受取補助金等	300,000,000	0	300,000,000
	受取寄附金	23,736,525	0	23,736,525
	基本財産運用益	0	1,353,965	1,353,965
	特定資産運用益	27,783,525	0	27,783,525
	特定資産評価損益等	△9,191,592	0	△9,1913,592
一般正味財産への振替額		△ 131,402,991	△ 1,353,965	△ 132,756,956
当期指定正味財産増減額		210,925,467	0	210,925,467
指定正味財産期首残高		3,096,489,064	113,600,000	3,210,089,064
指定正味財産期末残高		3,307,414,531	113,600,000	3,421,014,531

Ⅲ 正味財産期未残高	4,113,853,309	3,174,152,885	7,288,006,194

才団概要			
名 称	公益財団法人 笹川保健財団		
英 文 名 称	Sasakawa Health Foundation		
代 表 理 事	会長 喜多悦子、理事長 佐藤英夫		
所 在 地	東京都港区赤坂1丁目2番2号 日本財団ビル5階		
電 話 / F A X	03-6229-5377 / 03-6229-5388		
公式サイト	https://www.shf.or.jp		
設 立 年 月 日	1974年(昭和49年)5月4日		
所管官庁に関する事項	内閣府		
定款に定める目的	この法人は、「世界は一家、人類はみな兄弟姉妹」の理念に基づき、世界の安寧と人類の福		
	祉を希求し、個々人の健康寿命の延長と、身体的病苦のみならず、社会的、精神的、スピリ		
	チュアルな健康問題の解消を目指し、世界で最も苦難を強いられてきたハンセン病患者をは		
	じめとして、すべての人々の保健の向上に貢献することを目的とする。		

# 組織図



2022年7月1日現在

					2022年7月1日現
員・副	平議	員・雇	間名	<b>(簿</b>	
会	長	喜多	悦子	日本赤十字九州国際看護大学 名誉学長	
理 事	長	佐藤	英夫		
常務理	事	南里	隆宏		
理	事	石井	則久	非常勤理事 国立療養所多磨全生園 名誉園長	
理	事	遠藤	弘良	非常勤理事 聖路加国際大学 名誉教授	
理	事	松島 力	たつ子	非常勤理事 日野原記念ピースハウス病院相談室 室長	
監	事	鈴木	浩司	前公益財団法人日本海事科学振興財団 常務理事	
監	事	馬目	利昭	馬目公認会計士事務所 代表	
評 議	員	石垣	靖子	北海道医療大学 名誉教授	
評 議	員	尾形	武寿	公益財団法人日本財団 理事長	
評 議	員	清水	嘉与子	公益財団法人日本訪問看護財団 理事長	
評 議	員	高木	智子	朝日新聞 西部報道センター 記者	
評 議	員	長尾	榮治	国立療養所大島青松園 名誉園長	
評 議	員	福井	次矢	NPO法人卒後臨床研修評価機構 理事・人材育成委員長	
評議	員	山下	俊一	福島県立医科大学理事長特別補佐・副学長	
顧	問	松本	源二		
顧	問	森元 美	美代治	元NGO・IDEAジャパン 代表	

### 公益財団法人 笹川保健財団

〒107-0052 東京都港区赤坂1丁目2番2号 日本財団ビル5階 TEL:03-6229-5377 FAX:03-6229-5388

https://www.shf.or.jp/

Supported by **宣本 THE NIPPON** Supported by **订可 FOUNDATION**